

(様式2)

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月10日  
札幌市立宮の森小学校

## 1 本年度の基本理念

### 「共生・協働」の学校づくり ～ともに

- 一人一人の子どもが自分のよさや可能性に気づき、身の回りの他者を尊重し仲間と協働しながら豊かな学びを創り出し「我らの宮小」の担い手となるようにする学校づくり
- 子どもたち同士が、お互いに認め合い、知恵をもち寄り、より良い「我ら宮小」へと高めていける学校づくり
- 学校職員が各々のよさを発揮し、より良い取組を生み出すことができる学校づくり

## 2 目指す子ども像

- よりよいものを求め、主体的・創造的・協働的に探究していく子ども【かしこく】
- やさしさと思いやりをもち、自己や他者、命あるものを大切にする子ども【やさしく】
- 健やかな体と心を求め、粘り強く挑戦し続けていく子ども【たくましく】

## 3 本年度の重点目標

- ① 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるかかわり  
《人間尊重の教育》
- ② 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力の育成  
《学ぶ力の育成》
- ③ 他者を思いやる心 生命を尊重する心 自然や美しいものに感動する心を育む  
《豊かな心の育成》
- ④ 生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに、積極的に心身の健康の保持増進を図る資質・能力を伸ばす  
《健やかな体の育成》

## 令和7年度学校関係者評価書

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
<b>【1】人間尊重の教育</b>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を相互に関連させて取り組んでいく。</li> <li>・子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる宮小へ。</li> <li>・自他ともに価値ある存在として尊重する相互承認態度を高める子どもへ。</li> <li>・教職員自らの人間尊重の意識向上を。</li> <li>・子ども自身が自分を振り返り、人間尊重の意識の高まりに気付く手だてを。</li> <li>・各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動それぞれの特質を踏まえ、教科横断的な視点から、教育活動全体を通じて行うこと。</li> <li>・互いの個性や多様性を認め合い、個別の人権課題への取組の推進。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「ともに」の具体的な教育課程の立案 →子どもたちの声を引き出す、子どもたちの声を紡ぐ、なりたい自分へ具体的な姿を思い描ける教育課程の検討を行った。</li> <li>◇子どもたちの声を引き出す手だてや時間の確保 →行事において他学年の練習の様子を見合うなどの交流。高学年の自主的なプロジェクト活動など、児童の声を生かした活動を行うことができた。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の声を生かした活動や異学年交流などを通して「ともに学ぶ」学校づくりが着実に進められていると感じる。今後も子ども一人一人が自分のよさを実感し、尊重し合いながら成長できるとよい。</li> <li>○子どもたちの自主的な意見を聞き、活動に生かしている点が素晴らしい。</li> </ul>				
<b>【2】学ぶ力の育成</b>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かる・できる・楽しい授業づくりの充実を図る。</li> <li>・子ども自ら考え、判断し、表現する学習活動の充実を図る。</li> <li>・自分への自信につなげるきめ細かな指導の充実を図る。</li> <li>・知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、言語活動や体験的な活動を充実させ一人一人の学ぶ意欲の向上につなげる。</li> <li>・「五つのポイント」を意識した授業改善により、「学ぶ力」の伸長を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「つなぐ」「つながる」の意味を深化させる研究の推進 →何と何をつなげると子どもたちがつながるのか。子どもの思考や行動に基づいた具体的な手だてが見える授業研究を行った。</li> <li>◇次期学習指導要領を視野に入れた宮小カリキュラムの整理</li> <li>◇小中連携した取組 →札教研において小中パートナー部会を円山小、向陵中、本校の3校で実施し、小中の学習のつながり、教師のつながり、児童生徒の支援のつながり等を会合のもと、共通理解を図ることができた。</li> <li>◇学びのサポーターの活用</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「つなぐ・つながる」を意識した授業研究や小中連携の取組により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進められていることが興味深い。今後も、子ども一人一人の学ぶ意欲や、思考力を高める活動の充実を期待している。</li> <li>○自分への自信につなげる指導の充実が素晴らしい。</li> </ul>				
<b>【3】豊かな心の育成</b>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが互いを尊重し、支え合いながらよりよく生きようとする態度を育む。</li> <li>・学年学級での集団体験・集団活動の充実を図り、自律性（規範意識）社会性（相手意識）を育む。</li> <li>・道徳教育・社会性を育む体験的な活動を推進し、言語環境の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇異学年交流（縦割り）活動の更なる充実 →なかよしタイムにおいて子ども同士がかかわりたくなる内容の検討を行った。</li> <li>◇自主的・自治的な活動の充実 →委員会や学年の具体的な働きかけを行った。学年独自のプロジェクトの活動</li> <li>◇「あいさつの習慣化」に向けた継続した取組 →長期休業明けの重点的な取組や5年生による自主的な活動によって、全学的にあいさつへの意識が高まった。</li> <li>◇日常生活の安全確保と休み時間のルールの明確化 →ルールを明確化し、継続した指導をすることができた。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○縦割りの活動や委員会活動、あいさつ運動など、子どもたちが関わり合える取組が素晴らしい。体験的な活動や集団活動を通して互いを尊重し、支え合う心や社会性を育めると感じる。</li> </ul>				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
	【4】健やかな体の育成				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育授業の充実による体力・運動能力の向上を図る。</li> <li>・ 運動遊びの奨励による、運動の日常化と運動への親しみを。</li> <li>・ 基本的な生活習慣、性に関する指導等、健康に関する指導の充実を図る。</li> <li>・ 健康で望ましい食習慣の啓発など食育の推進を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇体力向上加配教諭とのチームティーチング</li> <li>◇専科指導の充実 →4年生における年間を通じた専科指導、複数体制での体育指導など、充実した指導を行うことができた。</li> <li>◇休み時間における運動の場の設定 →持続可能な取組、子どもたちが意欲的に取り組むことができる内容の提案、継続的な指導と児童の変容の確認。「宮小パーク」「跳び箱」「マット」週間の効果的な活用をすることができた。</li> <li>◇もりもりタイムによる食育、健康教育の継続的な指導 →目的が明確で、子どもも教師も無理のない継続的な指導ができるように計画を見直し、次年度の実施方法に繋げることができた。</li> <li>◇運動機会の向上に向けた取組の計画 →体育館・グラウンドの活用方法の見直し、担任の声掛けによる運動に取り組む意識の向上につながった。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員会による意見	○体育授業の充実や休み時間の運動機会の設定など、日常的に体を動かす取組が進められていると感じる。食育や健康教育を連携しながら、子どもたちが運動に親しみ、健やかな体と生活習慣を身に付けていくことができると期待している。				
分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
	【5】いじめ対策				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命と大切にす指導の徹底、いじめの防止・早期発見・対処に努める。</li> <li>・ 新たな不登校を生まない未然防止の取組、組織的・計画的な不登校支援に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇複数で対応する児童理解やいじめ対応の継続 →日常からの定期的な児童観察・児童理解。児童の困り感や課題についての共有。シャボテンログの活用ができた。</li> <li>SCやSSW等、外部機関を含めた「いじめ防止対策会議」を毎月開催。相談支援パートナーの活用</li> <li>◇積極的な保護者対応（学校と家庭における指導の方向性の確認） →客観的事実を伝え、学校と家庭が協力しながら児童理解・方向性の確認・生徒指導していくことができる体制づくりができた。</li> <li>◇保護者との連携強化を図る →個人懇談を年2回、学級懇談を年3回実施し、家庭との連携を図ることができた。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員会による意見	○日常的な児童観察や情報共有、外部機関との連携など、組織的ないじめ防止と早期対応の体制が整えられていて安堵した。保護者との連携を大切にしながら、子ども一人一人が安心して過ごせるよう継続してほしい。 ○シャボテンログなどの活用により、きめ細やかな対応が素晴らしい。				